授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	落合　知子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
テーマ：博物館・地域文化資源の博物館学的研究 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。	①⑥⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。	授業・調査への参加	30%
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。	事前・事後学習	40%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。	調査における態度	20%
協働・課題解決力	フィールドワークなどの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会に参加して発表ができる。	プレゼンテーション 勉強会での発表	5% 5%
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション、勉強会の発表各5%で評価する。
課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオで行う。

授業の概要

・博物館の日程・調査方法などを検討する。
・現地調査を1 日以上実施する。
・研究発表会を行う。
・研究成果レポートの作成と提出。
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。
参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣）
指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。
また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。
※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。
※現地調査の旅費は実費とする。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：博物館調査館の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	見学館の事前学習①	博物館調査の場所・日程等について検討する。 博物館調査の具体的内容と割振りをする。	予習：博物館予備調査 復習：今回の復習
4	見学館の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習：レポート内容確認 復習：レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	前期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CA111)			担当教員	滝　知則		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説明できるようになる。この説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。	④⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。	期末レポート	10%
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。	期末レポート	25%
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。 ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。	ゼミ内発表会演習参加状況	35% 10%
協働・課題解決力	①三川内フィールドワークの際、2年生と一緒に調査を行うことができる。②学術発表の際、2年生を支援できる。	フィールドワーク・学術発表参加	10%
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。	演習への参加状況	10%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

1．評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。
2．フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）

授業の概要

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分です。

教科書・参考書

教科書：指定しない。

参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。

指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器．吉川弘文館.

授業外における学修及び学生に期待すること

（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習)シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習)指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	２年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	（予習）対象観光地の歴史とアクセスを調べる。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	（予習）自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。 （復習）指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	（予習）演習で提示できるようにスケジュール案を作成する（復習）スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	（復習）次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告（速報）	（予習）5 分程度の報告メモを作成・印刷する。（復習）各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	（予習）所定の資料の要約 (復習)「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	①第８週～第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。 ②プレゼンテーションの内容を、リーフレット（A4 版１ページ）にまとめる。	（予習）プレゼンの作成 （復習）見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク ふりかえり 3		
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション（３分間） ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	（予習）プレゼンの練習 （復習）①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	（予習）三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	田中　誠		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。	①⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	TOEIC 470 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。	・テスト	35%
情報収集、分析力	社会性のある問題の情報収集、及び解決のための思考･判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。	・受講者の発表	40%
コミュニケーション力	(1)社会生活に必要なコミュニケーションのための知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。 (2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。	(1) 受講者の発表 (2) 課題	10% 15%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

1．毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。
2．15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。
3．担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。

授業の概要

英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。　（コースの指定は特にしない。）

この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：『英検準 1 級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。
参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ 』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
指定図書：『日本人の英語』 マーク・ピーターセン（著)、岩波新書。

授業外における学修及び学生に期待すること

コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力がＮ1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	寺社１	寺社に関する表現１、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	寺社２	寺社に関する表現２、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	飲食店	飲食店に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①（レベル 2)、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	食べ方	食べ方に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	浮世絵１	浮世絵に関する表現１、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	浮世絵２	浮世絵に関する表現２、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	温泉	温泉に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	温泉の効能	温泉の効能に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②（レベル 2)、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	祭り	祭りに関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習:英文 101-110 音読筆写
14	獅子舞	獅子舞に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、小テスト	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA（CF301）			担当教員	中山　忠彦		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツパフォーマンス測定の手法の習得」を3大目標として、演習を展開します。ⅡAの前半から、各種ワーク（輪読）を通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます（コミュニケーション力）。また、PCもしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します（メディアリテラシー）。ⅡAの後半では、スポーツパフォーマンスの測定と評価の手法について実践を通じて修得します。	①　②　⑤ ⑦　⑩　⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学の理論を説明することができる。 ・スポーツパフォーマンス測定を適切に実施できる。	・課題レポート ・作業課題	20% 10%
情報収集、分析力	・PCもしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。 ・自身の興味がある研究分野を選定し、関連する文献を収集できる。 ・測定データを適切に収集し管理できる。	・作業課題 ・研究レポート ・作業課題	10% 20% 10%
コミュニケーション力	・自分の意見を適切に伝えることができるとともに、他ゼミ生の意見を柔軟に取り入れることで円滑なコミュニケーションがとれる。	・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	10%
協働・課題解決力	・各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。	・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	10%
多様性理解力	・自分自身の特長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。	・受講態度	10%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・ワークへの取り組みと成果を評価する（評価比率：20%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。・メディアリテラシーおよびパフォーマンス測定の作業課題を評価する（評価比率：30%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。・課題レポート（評価比率：20%）：「競技スポーツの特長とパフォーマンス向上のためのトレーニング」について評価し、第15回授業時にフィードバックする。・受講態度（評価比率：10%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。・研究レポート（評価比率：20%）：授業での研究活動の内容を総合評価し、個別にフィードバックする。

授業の概要

本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツ（指導）体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

教科書・参考書

教科書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3

参考書：「コーチング学への招待」日本コーチング学会(編)（大修館書店）ISBN：978-4-469-26819-5

参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」 佐藤 進 他（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1108-1

指定図書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3

授業外における学修及び学生に期待すること			
授業外における学習：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。 **学生に期待すること**：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・演習授業の進め方についての説明 ・メディアリテラシー（連絡網作成） ・自己紹介と他己紹介	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・コミュニケーションワーク（情報交換） ・メディアリテラシー（アプリ活用） ・前学期の省察を行い、目標を設定	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
3	スポーツ科学の常識	・コミュニケーションワーク（スポーツの常識） ・メディアリテラシー（情報収集）	予習：スポーツの常識、非常識について考えられることを整理する 復習：スポーツを科学することの意義について考えをまとめる
4	キッズスポーツ指導体験	・コミュニケーションワーク（交流） ・メディアリテラシー（文書作成・レポート） ・発育発達に応じた運動の理解	予習：発育発達期の子どもの特長を理解する 復習：子どもへの運動指導
5	輪読①	・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・輪読テキストの選定と紹介 ・輪読箇所の担当を決める	予習：選定した教科書に目を通しておく 復習：担当箇所を精読する
6	輪読②	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） （テーマ：競技力とトレーニング） ・メディアリテラシー（文書作成）	予習：担当箇所のレジュメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
7	輪読③	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） （テーマ：競技力の養成） ・メディアリテラシー（文書作成）	予習：担当箇所のレジュメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
8	輪読④	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） （テーマ：競技トレーニングの計画） ・メディアリテラシー（文書作成）	予習：担当箇所のレジュメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
9	輪読⑤	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） （テーマ：試合への準備） ・メディアリテラシー（文書作成）	予習：担当箇所のレジュメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
10	輪読⑥	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） （テーマ：コーチングにおけるマネジメント） ・メディアリテラシー（文書作成）	予習：担当箇所のレジュメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
11	輪読⑦	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） （テーマ：スポーツ医・科学、情報によるコーチング支援） ・メディアリテラシー（文書作成） ・課題レポート作成（締め切り：第 12 回終了時）	予習：担当箇所のレジュメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
12	パフォーマンス測定①	・コミュニケーションワーク（協働） ・測定方法の手順と確認 ・メディアリテラシー（測定用紙作成）	予習：測定方法を確認する 復習：測定記録用紙のフォーマットを完成させる
13	パフォーマンス測定②	・コミュニケーションワーク（協働） ・メディアリテラシー（データ入力） ・収集した測定値の確認	予習：選択した測定方法について、熟練するまで反復練習する 復習：入力データ不備の確認
14	研究レポートの作成①データの再確認	・メディアリテラシー（文書作成・エクセル演算） ・研究レポートの文書作成方法 ※研究レポート課題（締め切り：最終授業の 1 週間後）	予習：入力データ不備の確認 復習：レポート作成に取り組む
15	研究レポートの作成②レポート作成	・アカデミックライティング ・研究レポートの作成	予習：研究レポートの作成 復習：研究レポートを完成させる

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA　(CF301)			担当教員	落合　和昭		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
ホスピタリティは観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。③ホテルを開発する手法を学びます。ホテルは「新たな需要を作り出す」とも言われます。④架空のプランや計画を想像することで、業務への理解を深めます。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	ホテルにおける開発業務を理解し、新しいマーケットの創造に関しても提案することができる。	課題レポート	30%
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集すると同時に、事業開発の潮流について自分なりの見識を持つことができる。	授業への積極姿勢	40%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分で架空のシミュレーションを行うことができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	授業への積極姿勢 プレゼンテーション	20%
協働・課題解決力	架空のホテル開発にあたり、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、差別化や独自性など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。	授業への積極姿勢 ホテル・インスペクションへの積極姿勢	5%
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行客など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。	プレゼンテーション	5%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
② 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。
③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する

授業の概要

・ホテルを開発する時に必要な作業を学ぶ。

市場調査書の作成（どんなマーケットが期待できるか）

設計与件書の作成（その市場ではどのようなホテルが最も相応しいか）

事業収支計画の作成（そのホテルの投資額や期待される利益はどの程度か）

・自分で架空の計画を作成して、ホテル開発をシミュレーションする。

また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。　　指定図書：授業時に、指定する。

授業外における学修及び学生に期待すること

① ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。
② ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。
③ 「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	（予習）シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	（予習）個人目標を考えておく
3	ホテル開発に関する要件	ホテル開発を計画するにあたり必要とされる要件に関して、説明を受け理解する。	（復習）自身で架空のホテル計画を立案する。
4	ホテル開発に関する市場調査①	ホテル開発の前提となる市場調査書の作成について、説明を受け理解する。	（復習）説明に基づき、架空のホテル計画に関わる市場調査を行う。
5	ホテル開発に関する市場調査②	調査結果を発表し、それにより予測されるホテル計画について、相互に評価や提案を行う。(1 回目)	（復習）意見交換結果をまとめて、市場調査書に反映させる。
6	ホテル開発に関する市場調査③	調査計画を発表し、それにより予測されるホテル計画について、相互に評価や提案を行う。（２回目）	（復習）意見交換結果をまとめて、市場調査書を完成させる。
7	ホテル開発に関する設計与件書①	設計者が前提とする設計与件書の作成について、説明を受けて理解する。	（復習）説明に基づき、自身で作成する架空のホテル概要を計画する。
8	ホテル開発に関する設計与件書②	計画にあたって生じた質疑の意見交換を行うとともに、補足説明を受ける。	（復習）質疑応答結果をまとめて、設計与件書の概要を作成する。
9	ホテル開発に関する設計与件書③	自身で作成した設計与件書の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。(1 回目)	（復習）意見交換結果をまとめて、設計与件書を完成させる。
10	ホテル開発に関する設計与件書④	自身で作成した設計与件書の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。（２回目）	（復習）意見交換結果をまとめて、設計与件書を完成させる。
11	ホテル開発に関する事業収支計画①	事業推進者が判断の前提とする投資計画の作成について、説明を受けて理解する。	（復習）説明に基づき、自身で作成する架空のホテル投資を計画する。
12	ホテル開発に関する事業収支計画②	自身で作成した投資計画の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。	（復習）質疑応答結果をまとめて、投資計画の概要を作成する。
13	ホテル開発に関する事業収支計画③	事業推進者が判断の前提とする収支計画の作成について、説明を受けて理解する。	（復習）説明に基づき、自身で作成する架空のホテル収支を計画する。
14	ホテル開発に関する事業収支計画④	自身で作成した収支計画の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。	（復習）質疑応答結果をまとめて、収支計画の概要を作成する。
15	専門演習ⅡA のまとめ	専門演習ⅡA 学んだことをとりまとめ、発表する。	（予習）発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	乙須　翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
本演習では、受講者が文献を講読・発表・議論する中で、文献を批判的に読み解き分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、他者と建設的な議論をする力、これらの力の養成を図りたい。テーマは**「日本の教育と社会を語ろう、考えよう」**とし、現代日本の教育問題や社会問題を討議していく。また文献の講読等を通じて、テーマに関わる基本的な法律や制度、時事問題の基礎知識を習得することもねらいとする。	①⑤⑥⑧⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	日本の教育や社会問題等の時事的問題に関する基本的語句や事項を習得し、法律や制度の面からも、その事象の問題性を指摘できる。	レジュメ 発表と議論	15% 15%
情報収集、分析力	テーマに関する資料や情報を自ら収集することができる。 テーマに関するデータや論文などを的確に読み取ることができる。	レジュメ 発表と議論	15% 15%
コミュニケーション力	根拠となる資料を提示しながら自分の見解を述べ、他の受講者と議論することができる。	発表と議論	20%
協働・課題解決力	子ども達を取り巻く環境や日本社会が抱える問題について、自分なりに問題点を指摘し、解決に向けた方策を提案することができる	レジュメ 発表と議論	10% 10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については、レジュメの様式・内容を 40%、発表と議論を 60%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による批判的考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に担当日）は大幅に減点する。

授業の概要

授業については、日本の教育と社会について受講者全員で議論したいテーマを設定し、担当者が資料や論考をレジュメにまとめ、授業ではそれを基に議論する。またその過程で、テーマに関する制度や法、現状や今後の課題などについて理解を深める。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。

教科書・参考書

教科書：指定しない　指定図書：志水宏吉編『岩波講座 教育』(1～7巻) 岩波書店 (2016)
指定図書：小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社 (2019)
参考書：勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣 (2015)
木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ【改訂版】』有斐閣 (2019)

授業外における学修及び学生に期待すること

※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。
※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。
・教職課程を履修している学生　・日本の時事問題に関して理解を深めたい学生
・子どもや教育の問題について関心のある学生　・論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたい学生
※本演習の受講者には「教育学」(前期) の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。
※専門演習ⅡA終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を求める（発表は専門演習ⅡB)。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予）シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ･ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）前学期の省察と本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	興味関心を高める①	各自が興味を持っている日本の教育問題･社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予）新聞記事の収集と発表準備 復）議論を振り返る
4	興味関心を高める②	各自が興味を持っている日本の教育問題･社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予）新聞記事の収集と発表準備 復）議論を振り返る
5	興味関心を高める③	各自が発表した内容について、関連事項、関連データを調べ、追加発表を行う。	予）関連事項、関連データの収集と発表準備 復）発表内容を振り返る
6	興味関心を高める④	各自が発表した内容について、関連事項、関連データを調べ、追加発表を行う。	予）関連事項、関連データの収集と発表準備 復）発表内容を振り返る
7	興味関心を高める⑤	日本の教育問題・社会問題を扱った文献、また論文検索サイトから講読したい論考を選び､発表担当者を決定する。報告手法（レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など）を確認する。	予）講読・議論したいテーマを考えておく 復）報告手法の復習
8	基礎知識の修得①	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読し、基本的事項を修得する。	予）テーマに関する下調べ 復）基本的事項の確認
9	論考の講読①	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し､議論する。	予）論考の講読あるいはレジュメの作成 復）議論を振り返る
10	基礎知識の修得②	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読し、基本的事項を修得する。	予）テーマに関する下調べ 復）基本的事項の確認
11	論考の講読②	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し､議論する。	予）論考の講読あるいはレジュメの作成 復）議論を振り返る
12	基礎知識の修得③	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読し、基本的事項を修得する。	予）テーマに関する下調べ 復）基本的事項の確認
13	論考の講読③	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し､議論する。	予）論考の講読あるいはレジュメの作成 復）議論を振り返る
14	興味関心を高める⑥	日本の教育問題･社会問題について本演習で学んだことを整理し、発表する。また、夏季休暇中に講読する本のテーマを決定する。	予）発表準備 復）議論を振り返る
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予）課題本を見つける 復）議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡＡ　(CF301)			担当教員	尾場　均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
長崎県佐世保市をテーマに放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。 観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基礎的知識を有し、観光情報を発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する 前年度は番組出演、映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営を実践した。	⑥　⑪

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる。	課題提示に対する個人によるプレゼンテーション	30%
情報収集、分析力	情報機器の操作やネット関連の技術習得、情報コンテンツの作成ができる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解することができる。	企画・番組内容	40%
コミュニケーション力	情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加をすることができる。	授業態度・活動への参加度	20%
協働・課題解決力	積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることができる。	課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNS による情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う

授業の概要

観光情報について実践的に学ぶ。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。本講義では、様々な分野の専門も関与して、受講する学生のアイデアを産業界等で実用化することやベンチャー企業を設立するなど、産学協同により大学等における学びを社会実装することを志向した授業を行う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

指定図書：『調べる技術・書く技術』　講談社

授業外における学修及び学生に期待すること

授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。
情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。
※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。
観光マネジメント　スポーツツーリズム　グローバルツーリズム

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Web の演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
3	放送機材の活用	放送用機材を使った撮影録音操作・活用を実践する	予：映画を作るときに必要な機材を調べる
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Web の演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNS の登録とメールアドレスを確認と事前準備
5	番組・映像デザイン準備	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
6	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 （情報コンテンツの開発を含む）	予：事例研究・分析
8	文書作成とデータ管理	文章の作成とデータベース、グラフィクスの演習	予：アプリケーションの動作確認
9	映像プレゼンテーション	ソフトウエア操作、字幕やテロップの演習	予：指定サイトの参照
10	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成と番組出演	予：作成原稿の確認と読み合わせ
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Web の操作・管理、コンテンツ作成	予：指定サイトの参照
12	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送や作品の作成と番組出演	予：作成原稿の確認と読み合わせ
13	放送実施企画	放送番組や映像作品内容の確認と内容研究	予：内容の確認と発表練習等
14	事前制作発表	グループでの番組やコンテンツを企画し発表する	予：作成原稿の確認と読み合わせ。事前確認・練習
15	制作発表	具体的な番組やコンテンツを企画し発表する	予：事前確認・練習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA　(CF301)			担当教員	佐野　香織		
展開方法	演習	単位数	1　単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の学びのうち、「まちのことば」に焦点をあてる。実際にまちに関わり、参加することを通して、「ことば」をつくる実践をしていく。そして、多様な人と生きる多文化共生社会における「ことば」像を描き、あらたな言語観を生み出すための視点を培うことをねらいとしている。	①④⑤⑦⑩

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	現代日本における「ことば」を様々な観点から考察し、社会状況から「ことば」のあり方の未来像を描くことができる。	レポート	30　%
情報収集、分析力	まちの人と関わりながら情報収集をし、分析、考察することができる。	発表資料 事前・事後学習	20　% 20　%
コミュニケーション力	他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。	発表 ディスカッション	20　%
協働・課題解決力	グループで課題発見活動を協働することができる。	相互評価 自己評価	10　%
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

レポートで30%、ことばと社会に関する知識（事前・事後学習、発表資料）で40%、企画立案活動（発表、ディスカッション、自己相互評価）で30%、で評価する。各フィードバックは授業内に行う。

授業の概要

本演習では、実際にまちに関わり、参加することを通して、学びをつくりながら「ことば」を考えていく。そしてフィールドにおける「ことば」を提案・発表し、社会につなげることをめざす。発表等に対するフィードバックは授業内で行う。課外でグループ活動を行うことがある。スケジュールは変更することがある。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：適宜ハンドアウトを配布する

参考書：演習内で指定する。

指定図書：山崎亮『まちの幸福論　コミュニティデザインから考える』NHK出版

授業外における学修及び学生に期待すること

このゼミは、様々な観点から「ことば」「社会」「学び」について考え、ことばをつくり、人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。実際にまちや色々な人と関わる経験をしたい人、主体的にプロジェクトができる学生に向いています。留学生が受講する場合は、自分のことばでまとめながらディスカッション運営できること、文献を読み、レポート執筆できる日本語力が必要です。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：自己紹介、「日本語」のイメージを話せるようにしてくる
2	省察・個人面談	専門演習Ｉでの学びを省察し、今学期の見通し、個人目標をたてる。	予習：個人ポートフォリオの作成 復習：個人ポートフォリオの見直し
3	ワークショップ①	外部講師によるワークショップ 「まちをつくるとは」	予習：ハンドアウトを読んでくる 復習：内容の要約
4	文献購読②	コミュニティデザインに関する基礎文献購読	予習：ハンドアウトを読んでくる 復習：内容の要約
5	文献購読②	ソーシャルインクルージョン、「ことば」に関する基礎文献購読	予習：ハンドアウトを読んでくる 復習：内容の要約
6	フィールドワーク①	フィールドワーク準備	予習：ハンドアウトを読んでくる
7	フィールドワーク②	フィールドワーク実施	予習：ハンドアウトを読んでくる 復習：内容の要約
8	フィールドワーク③	フィールドワーク実施	予習：ハンドアウトを読んでくる 復習：内容の要約
9	これからのことばをつくる①	これまで学んできたことを参考に、自分たちの「ことば」を考え企画立案、作成する。	予習：ハンドアウトを読んでくる
10	これからのことばをつくる②	①　で観察したことから課題を発見し、解決方法を探る。	予習：報告を書いてくる 復習：課題解決方法を考える
11	これからのことばをつくる③	②の解決方法にもとづいて、企画立案し、企画に適したあらたなことば、方法等を考える。	予習；企画を考えてくる 復習：ルールを確認
12	これからのことばをつくる④	③の企画にもとづき、企画の成果物を作成する	予習；企画成果物の作成
13	これからのことばをつくる⑤	企画成果物の発表を行い、相互評価を行う	予習：企画成果物発表準備
14	これからのことばをつくる⑥	④を受けて企画成果物の修正、再構成を確認し、完成させる。レポートの概要を説明し、作成の準備をする。	予習；企画成果物の修正
15	ふりかえり	今学期のふりかえりと協働省察を行う	予習：個人ポートフォリオ記入 レポートの作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬	⑪⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。	模擬試験	30%
情報収集、分析力	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業などかなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。	模擬試験	40%
コミュニケーション力	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。また、積極的にゼミ以外でも仲間ともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。	グループディスカッション	20%
協働・課題解決力	旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。旅行者のニーズに応えた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。	グループディスカッション	10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質問に対して回答する。これらグループディスカッションの取り組みを評価する（評価比率30%）。また、模擬試験を3回受験し、この点数を基に評価する（評価比率70%）。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。

授業の概要

本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものを範囲として、学生主体で問題を解きながら進めていく。形式としては勉強会を考えてほしい。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：『旅行業実務シリーズ1　旅行業法及びこれに基づく命令』　JTB総合研究所
『旅行業実務シリーズ2　旅行業約款　運送・宿泊約款』　JTB総合研究所
指定図書：『旅行業実務シリーズ1　旅行業法及びこれに基づく命令』　JTB総合研究所
『旅行業実務シリーズ2　旅行業約款　運送・宿泊約款』　JTB総合研究所

授業外における学修及び学生に期待すること

欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。

単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。国試合格のためにも、模試を受験すること（模試費用は5.500円）。なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないので注意してください。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期の進め方を説明する。	ルーブリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
3	旅行業法（1）	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第 1～6 条の予習、復習
4	旅行業法（2）	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第 7～11 条の予習、復習
5	旅行業法（3）	料金掲示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第 12 条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法（4）	外務員、広告、標識、企画旅行の円滑な実施措置	第 12 条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法（5）	旅程管理業務、禁止行為、旅行業者代理業	第 12～14 条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法（6）	業務改善命令、旅行業協会、旅行サービス手配業	第 18 条～該当箇所の予習、復習
9	旅行業約款（1）	募集型企画旅行の部 第 1 章総則、第 2 章契約の締結	募集型企画旅行の部 第 1～12 条の予習、復習
10	旅行業約款（2）	募集型企画旅行の部 第 3 章契約の変更、第 4 章契約の解除	募集型企画旅行の部 第 13～16 条の予習、復習
11	旅行業約款（3）	募集型企画旅行の部 第 4 章契約の解除、第 5 章団体契約、第 6 章旅程管理	募集型企画旅行の部 第 13～26 条の予習、復習
12	旅行業約款（4）	募集型企画旅行の部　第 7 章責任	募集型企画旅行の部 第 27～28 条の予習、復習
13	旅行業約款（5）	募集型企画旅行の部　第 7 章責任 受注型企画旅行の部	募集型企画旅行の部 第 29～30 条の予習、復習 受注型企画旅行の部 第 1～7 章の予習、復習
14	旅行業約款（6）	手配旅行契約の部、旅行相談の部	手配旅行契約の部 第 1～7 章の予習、復習 旅行相談の部の予習、復習
15	運送・宿泊約款	運送約款、宿泊約款の概要と重点ポイント	運送約款、宿泊約款の予習、復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	竹田　文雄		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	３年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの類型
初歩のイタリア語会話」の学修をとおして、世界でも屈指の観光大国であるイタリアの文化とエッセンスを感じることに主眼を置き、同時にイタリアの観光資源や世界遺産にも触れていきます。また本演習での学修と実践を通して得るいろいろな「気付き」、「発見」を生かして、社会から求められる「主体性」、「ホスピタリティ」の修得に努めていきます。実用イタリア語検定の「10 月受験」を必須条件とします。	①②⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			%
情報収集、分析力	マスメディア、ネットワークメディア等を活用できる。 （新しいことを始める際の情報の収集と、それら情報の取捨選択。）	・プレゼンテーション	20%
コミュニケーション力	自らが率先してイタリア語を話してみるという確固たる意志を持ち、毎回の課題に積極的に参画できる。	・課題参画 ・プレゼンテーション	30% 30%
協働・課題解決力	グループ内での会話の実践と、その場の取り纏めができる。 （アウトプットの実行。）	・課題参画	20%
多様性理解力			%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

何事にも積極性を求めます。特に「発音練習」、「ディスカッションの場での積極的な発言と事前準備の有無」に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現できたか？」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の３つの要素を主な評価軸とします（評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していきます。

授　業　の　概　要

実用イタリア語検定 4・5 級の合格を目指します。イタリアを旅行する時に最低限知っておきたいイタリア語のフレーズや言い回しを、メンバー全員で「声に出して学ぶ」ことを基本とします。あいさつや自己紹介などの基本的フレーズからはじめて、2 往復以上の会話までを学びます。「イタリア語会話」へのチャレンジをすべてにおいての基本とするので、バンバン話してもらいます。授業スキームは「メンバー学生の発言・コメントを担当教員が聴く」ものであり、「担当教員がメンバー学生に対して聴かせる」ものではありません。授業振り替えの可能性があり、効果が期待出来る際は担当教員の判断でテーマ補正を行います。標準的な１コマあたりの授業外学修時間は４５分。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：　『本気で学ぶイタリア語』:　本多　孝昭　　ベレ出版
参考書：　『実用イタリア語検定 2023/3･4･5 級 問題･解説（リスニング CD+音源 DL 付)』
特定非営利活動法人国際市民交流のためのイタリア語検定協会　　丸善出版株式会社
指定図書：『30 日で話せるイタリア語会話』: アレッシオ・コッポラ　　ナツメ社。

授業外における学修及び学生に期待すること

欠席・遅刻の際は、必ず事前に連絡を入れること。
学生の皆さんの自発的な積極性に期待します。そして「第 2 外国語はイタリア語」と言ってみたい学生の参加に期待します。なお、自ら発言しようという気概の無い学生、「わかりません」「特に何もないです」が口癖の学生、指名されても「無言」の学生、克己しようとする気概の無い学生にとっては、毎回の演習は苦痛をともなう時間となり、また他のメンバーにも迷惑をかけることにもなるので、当演習は向いていないと思われます。

回	テーマ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の導入	この一年で何を目指すのか？の確認。 演習全体の方向性の説明とメンバーの自己紹介、等。	予：シラバスの読込み。 ３分自己紹介の準備。 復：何を目指すのか？を あらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を５分間で 発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
3	CAPITOLO 01-05	発音、あいさつ、名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
4	CAPITOLO 06-10	形容詞の性と数、主語人称代名詞と動詞 essere の直説法現在、指示代名詞 questo・quello、指示形容詞 questo・quello、所有形容詞	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
5	CAPITOLO 11-15	所有形容詞と親族名詞と定冠詞、数字、名詞と形容詞の特殊な複数形、特殊な変化をする形容詞、前置詞と定冠詞の結合系	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
6	CAPITOLO 16-20	部分冠詞、c’e と ci sono、動詞 avere の直説法現在、その他の動詞の直説法現在（規則変化・不規則変化）	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
7	CAPITOLO 21-25	補助動詞の直説法現在、andare と venire、疑問詞で作る疑問文（che を使う場合とそれ以外の場合）、接続詞	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
8	CAPITOLO 26-30	曜日・月・季節と日付、直接目的語人称代名詞（～を・～に）、間接目的語人称代名詞と直接目的語人称代名詞の結合形、代名小詞 ci	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
9	CAPITOLO 31-35	代名小詞 ne、近過去、再帰動詞、半過去、大過去	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
10	CAPITOLO 36-40	形容詞と副詞の比較級・最上級、関係代名詞、前置詞、未来形、命令法	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
11	CAPITOLO 41-45	受動態（受け身の si・非人称の si）、条件法、接続法（現在・過去）、接続法（半過去・大過去）、仮定文	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
12	CAPITOLO 45-50	ジェルンディオ、不定代名詞・不定形容詞、非人称構文、使役動詞・感覚動詞、感嘆文	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
13	話しかけてみよう（4）	CAPITOLO 10-25 の振り返り	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
14	話しかけてみよう（5）	CAPITOLO 26-50 の振り返り	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
15	前期総括	苦手項目の選出と対策構築	予：個人総括の仕上げ

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA　(CF301)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
さまざまな地域課題についての課題と各地域の共通点について SDGs の視点を通した持続可能性をテーマに理解します。そのうえで地域の観光業の実態を学び、地域課題の解決につながる様々な事業展開の事例研究を通して、地域観光まちづくりの事業テーマ研究を行います。	②⑥ ⑦⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・地域課題解決のための事例研究を通して、その背景と効果について考察することができる。 ・情報発信について商品流通やデジタルマーケティングなどの様々な手法について理解することができる。	レポート作成	30%
情報収集、分析力	域内の社会課題の最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。	授業への積極的な姿勢	50%
コミュニケーション力	・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 ・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。	プレゼンテーション	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

「授業への積極的姿勢」(50%) は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。
「レポート」(30%) は内容の論理性・独自性を重視して判断します。
「プレゼンテーション」は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価します。
フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。

授業の概要

SDGs の基礎知識の習得から地域課題に関する認識を持ったうえで、地域のおける旅行業・観光業の課題を考え、あるべき観光地の方向性についてグループで調査、議論を行う。地域における観光まちづくりや観光事業者の現状や観光客との関係性を理解し、それぞれにおける課題の論点を洞察しながら、新しい時代の地域観光の在り方について、その成果をメンバーとともに研究・発表を行います。
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とします。

教科書・参考書

教科書/参考書：特になし
指定図書：『持続可能な地域の作り方』筧　裕介（英治出版）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習では社会課題を持続可能な視点で考え、「規範的・倫理的判断力」の獲得を目標に、多くの学外機関の方との連携や協力の中で自らの考えを深めていくことが求められます。新しい時代の社会に貢献するアイデアを実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	（予習）事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定をおこなう。	（予習）自身のこれまでの取り組や興味・関心をまとめてくる。
3	持続可能な観光①	SDGs の基本や取り組む意味について	（復習）学習内容と教科書の読み直し
4	持続可能な観光②	SDGs の基本的な概念（17 のテーマ）、用語について学ぶ※専門演習Ⅰの既修者が中心となって進める。	（復習）学習内容と教科書の読み直し
5	持続可能な観光③	SDGs のテーマごとの実態について調べて発表する	（予習）「17 のテーマのうちから一つ選んで実態を調べる」
6	持続可能な観光④	各グループの発表と振り返り	（復習）自分の興味・関心をレポートにまとめる
7	持続可能な観光⑤	地域課題の連鎖について考える	（復習）これまでの学びから自分の興味関心をまとめる。
8	持続可能な観光⑥	地域課題の解決手段としての地域観光の課題と持続性について考える	（予習）県内の観光資源についてまとめてくる。
9	持続可能な観光⑦	テーマに従って地域観光の課題について調べて発表する。	（復習）課題から具体的な論点を考える。
10	グループワーク①	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジューリング確認。	（予習）調査対象の絞り込み。
11	グループワーク②	フィールドワーク	（予習）調査ポイントの確認
12	グループワーク③	グループごとの進捗・経過の発表	（予習）発表内容の論点確認
13	グループワーク④	担当教員と各グループ別に企画案の内容確認・精査	（予習）自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク⑤	プレゼンテーション準備	（予習）発表準備
15	成果発表	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	（予習）グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA　(CF301)			担当教員	山内　美穂		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	３年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの 類 型
この演習のねらいは二つあります。一つは自身が興味をもつテーマを深く理解し人に説明することを通して、わかりやすく伝える力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。もう一つは、地域社会の多文化共生やインバウンド観光について知り、課題をみつけ、具体的な方策を考える力を鍛えることです。	①④⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	自身が興味をもつテーマについて深く理解し、わかりやすい資料をつくることができる。 必要な調査と分析をし、わかりやすい資料をつくることができる。	発表資料	30%
情報収集、分析力	自身が得た知識をわかりやすく伝えることができる。 テーマに沿って調査や分析をし、分かりやすく説明できる。 テーマに沿って調査や分析をし、レポートを書ける。	発表 レポート	30% 20%
コミュニケーション力	発表した内容に対し、質問やコメントができる。 グループメンバーと協力して発表資料を準備することができる。	ディスカッション 発表準備	10% 10%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

自分が担当する箇所の発表で 30%、レポートで 20%、発表資料で 30%、発表後のディスカッションへの参加度で 10%、ゼミ仲間との協働で 10%を評価します。発表に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックします。

授　業　の　概　要

前半は各履修者が自身が興味をもつテーマについて簡潔にまとめ発表する練習をします。毎回の授業の予習として、発表者が準備した資料を読んできます。発表者は担当箇所のテーマの資料を作成して説明し、発表者以外の人はコメント・質問し、全員でディスカッションします。後半は、外部講師のレクチャーやフィールドワークを通して地域社会やインバウンド観光の状況について知り、課題をさぐります。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：Think the Earth 編著『未来を変える目標 SDGｓアイデアブック』紀伊国屋書店, 2018
参考書：加藤好嵩『「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』大修館書店,2019
指定図書：加藤好嵩『「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』大修館書店,2019

授業外における学修及び学生に期待すること

この演習は、自身が興味をもつテーマについてさまざまな資料から収集した情報をまとめて自分以外の人に分かりやすく伝える力をつけることに重きを置いています。それは４年生の卒業研究でも必要となるからです。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。発表者は自身が担当するテーマをしっかり理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の人もしっかり予め提出された発表者の資料を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。また、外部の方と接触する機会もありますので、積極的に関わってほしいです。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミの仲間、お互いを知る。 授業の進め方、発表の方法について説明。 また、前半の発表内容について決める。	復習：配布プリントを読む。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き。 復習：本学期の目標設定の清書。
3	自分の興味あるテーマの「授業」をしよう① 発表者１　発表者２	各履修者の興味あるテーマについて予め資料を作成し、分かりやすく説明する練習をする。担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：発表担当者は資料を準備。発表者以外は資料を読んでおく。 復習：ピアレビューシート記入
4	自分の興味あるテーマの「授業」をしよう② 発表者３　発表者４	各履修者の興味あるテーマについて予め資料を作成し、分かりやすく説明する練習をする。担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：発表担当者は資料を準備。発表者以外は資料を読んでおく。 復習：ピアレビューシート記入
5	自分の興味あるテーマの「授業」をしよう③ 発表者５　発表者６	各履修者の興味あるテーマについて予め資料を作成し、分かりやすく説明する練習をする。担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：発表担当者は資料を準備。発表者以外は資料を読んでおく。 復習：ピアレビューシート記入
6	自分の興味あるテーマの「授業」をしよう④ 発表者７　発表者８	各履修者の興味あるテーマについて予め資料を作成し、分かりやすく説明する練習をする。担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：発表担当者は資料を準備。発表者以外は資料を読んでおく。 復習：ピアレビューシート記入
7	自分の興味あるテーマの「授業」をしよう⑤ 発表者９　発表者 10	各履修者の興味あるテーマについて予め資料を作成し、分かりやすく説明する練習をする。担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：発表担当者は資料を準備。発表者以外は資料を読んでおく。 復習：ピアレビューシート記入
8	地域社会理解（１）	インバウンド観光の取り組み（ゲストスピーカー）	予習：配布プリントを読む。 復習：訪日外国人客の動向について調べる。
9	地域社会理解（２）	地域（佐世保市）の国際政策について理解する。	予習：配布プリントを読む。 復習：自身の出身地の国際政策について調べる。
10	地域社会理解（３）	地域の日本語支援の現場を見学 （学外学習）	予習：配布プリントを読む。 復習：地域のことばの課題を考えてレポート。
11	クラフトツーリズム（１）	クラフトツーリズムについての取り組みについて理解する。	予習：配布物「クラフトツーリズム」を読む。 復習：各地の「クラフトツーリズム」の状況について調べる。
12	クラフトツーリズム（２）	フィールドワーク準備	予習：配布物「クラフトツーリズム」を読む。 復習：フィールドワーク準備
13	クラフトツーリズム（３）	フィールドワーク（学外学習）	予習：フィールドワーク準備 復習：フィールドワークのまとめ
14	クラフトツーリズムの調査発表	クラフトツーリズムについて調べたことを発表	予習：発表準備 復習：発表のピア評価
15	まとめ	これまでの学習項目について復習し、後期の期末研究に向けたプランについてディスカッション。	予習：興味をもったテーマについて発表の準備。 復習：学習した内容に基づき教員が課すテーマのレポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA　(CF301)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの 類 型
This course provides an introduction to research skills in English. Working in stages, students learn basic technical, academic and communication skills necessary for researching a topic related to UN Sustainable Development Goals (SDG's). Specifically, students will learn about how to find information, how to summarize, and how to use sources to clearly write about a topic.	④ ⑤ ⑦

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	Students will be able to write a correctly formatted research paper Students will be able to write a short research paper based on a topic provided to them	Report Report	10% 30%
情報収集、分析力	Students will be able to collect and organize information from sources and improve their English reading ability	Assignments	50%
コミュニケーション力	Students will be able to discuss ideas about a research topic in a way that informs and engages their audience	In-class engagement	10%
協働・課題解決力			%
多様性理解力			%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

In-class engagement (Group discussions and mini-presentation): 10%
Assignments (Complete weekly assignments and preparation work for projects): 50%
Report (Complete a short research paper which uses sources to address a given topic) 40%
* All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook (https://niu.9learn.net/ and Google Classroom)

授　業　の　概　要

In the first few classes, students discuss how to find information about a topic and present their findings. From this, they move on to preparing for a research paper. Working in stages, students research a topic in order to answer a specific research question. Students will discuss and present their ideas as well as write. Students will improve their English reading through extensive reading on Xreading. この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：Materials provided by the teacher
参考書：J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」
指定図書：Extensive reading books from the library

授業外における学修及び学生に期待すること

1. This course is conducted in English.
2. Students are required to have a tablet or notebook computer connected to NIU WIFI.
3. Student expectations: Students will attend all lessons (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher before missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	Introduction	• Introduce the course and review the syllabus • Students learn about each other • What is research? Previous experience	Read syllabus in advance Xreading
2	Seminar business	• *Rubric hyoka*, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays	Complete the rubric and input any books on Manaba. Xreading
3	Personal goal setting	• Conference with seminar teacher about personal goals for the semester • Check *Rubric Hyoka* and 100 Book status	Students meet with teacher about rubric. Xreading
4	Finding sources	• What is a source? • High vs low quality sources • What is plagiarism?	Students prepare sources about their topic. Xreading
5	Evaluating sources	• Evaluating students' sources • Further information about plagiarism	Students find further sources based on teacher feedback. Xreading
6	Library tools for sources	• Visit the library to investigate tools for investigating sources	Students find one research journal source and bring it to the next class. Xreading
7	Using sources 1	• Note taking skills for sources	Students take notes on sources and bring to the next class. Xreading
8	Using sources 2	• Summarizing information • Paraphrasing information • In-text citations	Students write one sentence / paragraph summaries of their sources. Xreading
9	Using sources 3	• Students receive feedback about their writing and improve • In-text citations and references section	Students improve their summaries for next class. Xreading
10	Format of research papers	• Understanding research topics and basic formats for research papers • Students organize their notes into a coherent outline	Make an outline which answers the topic question. Xreading
11	Draft paper first half	• Workshop on the first half of students' research paper	Write the first half of the paper. Xreading
12	Draft paper second half	• Workshop on the second half of students' research paper	Improve first half. Write the second half of the paper. Xreading
13	Final paper formatting	• Best practices for formatting academic papers • Check 100 Book status	Improve the second half. Adjust formatting. Xreading
14	Mini-presentation	• Students present and discuss the topic of their papers	Give presentation about topic and discuss. Xreading
15	Wrap-up	• Students receive feedback on their final papers	Receive feedback about paper. Make final changes. Xreading

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	浦郷　淳		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習のテーマは「現在の学校」である。現在の日本の小・中・高等学校が置かれている状況や問題点を討議していく。討議する中で、自らの問題意識を「問い」として設定し、必要な情報を収集し、分析し、自らの意見を表現できるようになることをねらいとする。指定された図書に関する不明な語義は各受講者で事前に学習したことを前提とし、受講者のプレゼンテーション・レジュメによる発表を演習の中心に置く。必要な情報を得るための情報収集能力、伝えたいことを的確にまとめるための分析力や表現力、グループワークを通した協働的問題解決能力、発表に対して建設的な議論を進めるディベート力、議論を通して得た知見を整理する力、これらの力の養成を図りたい。	①・②・③・④・⑤

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	日本の現在の学校が置かれている状況を知り、文献を読み解くのに必要な用語等を習得し、問題点を説明・指摘できる。	レジュメ 発表と議論	10% 15%
情報収集、分析力	必要な資料や情報を自ら収集し、整理・分析し、的確に読み取ることができる。 発表を基に、自分の発表を再考し、分析することができる。	レジュメ 発表と議論 レポート	20% 20% 10%
コミュニケーション力	自らの問いと結論を明確にした上で、他の受講者と議論することができる。	発表と議論	15%
協働・課題解決力	グループワークにおいて、問題点を焦点化することができる。	グループワーク	10%
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

○　評価については、レジュメの様式・内容を30%、発表とグループワーク・質疑応答・議論を60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを10%の比率で評定する。なお、演習の無断欠席は減点の対象となる。
○　レジュメは、①様式や引用のルールの遵守②問題点と結論、結論に至る根拠が明確に示されているか、の２点を中心に評定する。なお、レジュメの作成方法については演習中に指示をし、演習内で随時コメントする。
○　グループワークは、①個々の問題点を出し合い②整理・分類できたかの２点を中心に評定する。
○　発表や議論は、①使用する語句が正確な意味で用いられていたか、②テーマに対して批判的・探究的態度で臨んでいたか、③発表・質疑・発言の内容が論理的なものになっていたかの３点を中心に評定する。
○　レポートは、発表での質疑応答を経た修正ができているかどうかで評定する。レポートは、担当する回の発表終了後に作成するものとし、提出方法等については授業内で指示する。

授業の概要

授業については、石井英真『流行に踊る日本の教育』に掲載されている論考を担当者がレジュメにまとめ、プレゼンテーションを用いて発表する。その発表を基に小グループで問題を焦点化し、全体での討議を行う。論考内の不明な用語については、各自で調べて理解しておくものとし、その理解を基に発表・議論に臨むものとする。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、80分とする。

教科書・参考書

教科書・指定図書：石井英真『流行に踊る日本の教育』東洋館出版社（2021）
参考書：奈須正裕『ポスト・コロナショックの授業づくり』東洋館出版社（2020）

授業外における学修及び学生に期待すること

1. 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。
2. 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。
3. 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。
4. 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。
5. 専門演習ⅡA終了後、夏期休暇中の課題として本１冊の講読を指定する（発表は専門演習ⅡB)。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予）シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	疑問点を意識する	教科書をめくって、不明な語句等を共有し、何を調べなければならないのか、学校で何が問題になっているのかを焦点化し、共有する。	予）教科書通読 復）理解できなかった語句調べ
4	疑問点を共有する	学校で問題になっていることの概略を、持ち寄った資料で共有する。	予）学校で問題になっていることを示す資料 復）議論の振り返り
5	興味関心を高める	教科書の中から、発表担当者を決定する。報告手法（レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など）を説明する。	予）教科書通読と担当希望箇所選び 復）報告手法の確認
6	論考の講読①	教員が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）資質・能力ベースのカリキュラム改革	予）論考の講読・不明語句調べ 復）資質・能力について整理する
7	論考の講読②	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）個別化・個性化された学び	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）個別化・個性化された学びについて整理する
8	論考の講読③	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）対話的・協同的な学び	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）対話的・協同的な学びについて整理する
9	論考の講読④	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）プロジェクト型学習	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）プロジェクト型学習について整理する
10	論考の講読⑤	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）インクルージブ教育	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）インクルージブ教育について整理する
11	論考の講読⑥	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）教師による「研究」	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）教師による「研究」について整理する
12	論考の講読⑦	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）外国語「コミュニケーション」	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）外国語「コミュニケーション」について整理する
13	論考の講読⑧	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）大学入試改革	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）大学入試改革について整理する
14	論考の講読⑨	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例）エビデンスに基づく教育	予）論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復）エビデンスに基づく教育について整理する
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予）課題本を見つける 復）議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIA(CF301)			担当教員	江島　弘晃		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
専門演習 IIA および IIB では運動生理学や健康科学に関する専門的知識を習得することを目的とする。とくに、当該分野における研究背景および進展状況を把握することで卒業論文を作成する準備を進めていく。IIA では分子運動生理学に関するテキストおよび原著論文の輪読を行うこと、また関連研究の情報収集および分析する能力を習得することに重視する。	②③⑤⑧

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・ 運動生理学や健康科学に関する専門的知識を獲得することができる。	・ 課題の遂行	30%
情報収集、分析力	・ 運動生理学や健康科学に関する最新の情報を原著論文等を通して収集し、自身の考察力を育むことができる。	・ 情報収集	60%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べることができる。	・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	10%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

参考書を通して運動生理学に関する専門的な理解度を評価基準とする（評価比率:30%）。また、各自が設定した課題やテーマに関する先行研究や資料を選択し、それらを基にし、自身の考察を踏まえた適切な要約を作成していること（評価比率:60%）、数回の発表機会を通したプレゼンテーション・ディスカッションを適切に表現出来ているか否かも評価する（評価比率:10%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。

授業の概要

運動生理学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いた文書・表図作成またはスライド作成の技法を獲得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前（演習授業の時間外）に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッションは参加者全員で行う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない
参考書：石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」（ナップ）ISBN：978-4-905168-59-1
指定図書：石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」（ナップ）ISBN：978-4-905168-59-1

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習を通してスポーツ科学・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できることを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することを目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	・ 演習授業の進め方についての説明 ・ 個別に学業などに関する面談を実施	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備（1）	・ 教員による参考書・テキストなどの紹介	予習：参考書などの通読 復習：授業で輪読した箇所の復習
4	輪読の準備（2）	・ 教員による輪読・発表（当該研究分野における起源又は最新の研究内容などの発表）	予習：PC の準備 復習：授業で紹介した研究内容について復習
5	輪読（1）	・ 教員による輪読・発表 （テーマ・分子運動生理学入門）	予習：参考書の通読 復習：分子運動生理学の概念について復習
6	輪読（2）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・遺伝とスポーツ:背景と方法論）	予習：参考書の通読 第 2 章のレジュメ作成 復習：遺伝とスポーツの関連性について復習
7	輪読（3）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・シグナル伝達と運動適応）	予習：参考書の通読 第 3 章のレジュメ作成 復習：シグナル伝達について復習
8	原著論文の紹介（1）	・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・シグナル伝達と運動適応）	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習：運動時のシグナル伝達に関する先行研究の復習
9	輪読（4）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・持久的運動による分子適応）	予習：参考書の通読 第 4 章のレジュメ作成 復習：持久的な運動による生体適応について復習
10	原著論文の紹介（2）	・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・持久的運動による分子適応）	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習：持久的な運動による生体適応に関する先行研究の復習
11	輪読（5）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・遺伝と持久的スポーツ）	予習：参考書の通読 第 5 章のレジュメ作成 復習：遺伝と持久的なスポーツの関連性について復習
12	原著論文の紹介（3）	・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・遺伝と持久的スポーツ）	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習：遺伝と持久的なスポーツの関連性に言及した先行研究について復習
13	輪読（6）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・レジスタンス運動の適応）	予習：参考書の通読 第 6 章のレジュメ作成 復習：レジスタンス運動について復習
14	原著論文の紹介（4）	・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・レジスタンス運動の適応）	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習：レジスタンス運動に関する先行研究について復習
15	総括	・ 前期授業のまとめと休暇中の課題	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF 301)			担当教員	川上　直彦		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。	①⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。	レポート・発表	30%
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。	レポート・発表	35%
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニュケーション能力を上達させることができる。	発表	25%
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。	授業参加度	10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の90%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。

授業の概要

本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVD などの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：適宜プリントを配布する。
参考書：適宜プリントを配布する。
指定図書：世界の歴史１：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）

授業外における学修及び学生に期待すること

古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散１	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い１	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い２	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）１	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）２	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	３年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 IA・IB の流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。	⑤ ⑥ ⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	「体育」「スポーツ」「身体」に関する問いを人文科学的に考察できる。体育スポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。	・専門分野研究の要約内容 ・指導立案や指導実践	１５％ １５％
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。	・資料収集 ・専門分野に関する問題設定	３０％ ２０％
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通了解となる答えをみつけるための議論ができる。	・他者の主張を踏まえた議論の展開	２０％
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）が作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。
・運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。
・フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。

授業の概要

・教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメ等の発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。
・本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。
・この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教科書・参考書

教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない
教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない
教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版　＊該当年度の問題集
指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、 雑誌『現代スポーツ評論』創文企画
『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「論文」という伝え方ⅡA	論文は感想文やレポートと何が違うのか	予習:『新版 論文の教室』を通読 復習:図書の「はじめに」と「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ⅡA	主張の抽出と思考の言語化ⅡA （テーマ：要約作業から論証作業へ）	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ⅡA	授業/指導計画と種目の教材化ⅡA （実技指導の対象に加え環境を選定）	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：遊びを本質とするスポーツ）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ:体育、スポーツ、運動部活動、武道の区別）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：ボールゲーム）	予習:種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツ指導に科学的知識を活かす）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：パフォーマンス向上のための取り組み）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：陸上競技関連）	予習:種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ･運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツ成績を左右するのは身体能力かメンタルか、幼少期からスポーツをすることの是非）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （テーマ：幼児体育の指導法）	予習:種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本学期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIA(CF301)			担当教員	東出　朋		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことばという、形のないものに値段がついているという観点から日本語を考える。「ことばの社会言語学的価値」について考え、日本語をはじめとした様々な言語にいかに格差が存在しているかを学ぶ。	③④⑤

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	社会言語学的価値について理解する。	発表 レポート	15% 20%
情報収集, 分析力	インターネットや図書を活用して生データを収集・整理・分析することができる。	発表	40%
コミュニケーション力	調べてきたことを簡潔にまとめて発表することができる。 ディスカッションに参加し、自分の意見を的確に述べることができる。	発表 ディスカッション	10% 15%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

社会言語学的価値に関する専門知識について、普段の発表やレポートを30%で評価する。発表にあたって自分で情報収集・分析することについて40%で、自分の意見を簡潔にまとめて発表・ディスカッションすることについて30%で評価する。発表・レポートについては、授業内でフィードバックを行う。

授業の概要

授業内では、資料を輪読し、ディスカッションすることで知識を深める。授業外では、自分で情報を収集し整理したりする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学習時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：井上史雄（2000)『日本語の値段』大修館書店
参考書：特になし
指定図書：田中ゆかり（2011)『「方言コスプレ」の時代――ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店

授業外における学修及び学生に期待すること

普段から語彙を増やすように積極的に努めること。
日本人学生は「日本語検定」、留学生は「日本語能力試験（JLPT)」を各自受験すること。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の進め方，評価方法の説明	事前にシラバスをよく読み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習）ルーブリック評価と読書記録の入力 復習）ルーブリック評価
3	I　ことばの知的価値と情的価値	(1)日本語の言語市場	予習）I-1 を読む 復習）他言語について調べる
4	I　ことばの知的価値と情的価値	(2)ことばの知的価値	予習）I-2 を読む 復習）他言語について調べる
5	I　ことばの知的価値と情的価値	(3)ことばの情的価値	予習）I-3 を読む 復習）発表準備
6	I　ことばの知的価値と情的価値	発表	予習）発表準備 復習）他者の発表の感想を書く
7	I　ことばの知的価値と情的価値	発表	予習）発表準備 復習）I 章のまとめを書く
8	II　日本語の格付け	(1)日本語の市場価値の変動	予習）II-1 を読む 復習）他言語について調べる
9	II　日本語の格付け	(2)今なぜ日本語の試験か	予習）II-2 を読む 復習）他言語について調べる
10	II　日本語の格付け	(3)外国語の試験	予習）II-3 を読む 復習）他言語について調べる
11	II　日本語の格付け	(4)ことばに値段がつく時代	予習）II-4 を読む 復習）他言語について調べる
12	II　日本語の格付け	(5)日本語の難易度	予習）II-5 を読む 復習）発表準備
13	II　日本語の格付け	発表	予習）発表準備 復習）他者の発表の感想を書く
14	II　日本語の格付け	発表	予習）発表準備 復習）II 章のまとめを書く
15	まとめ	前期のまとめ	予習）I と II を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	川上　知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの 類 型
本演習では，学校心理学を大きな柱として授業を展開する。基本的には，子どもに関わって，「学習」を促進したり，「心の問題」を解決したりするための学問とされ，生徒指導・教育相談，キャリア教育（進路指導）も包括する領域とも言える。指導・支援の土台となる一人一人の子どもの発達を，子どもたちの状態や状況から正しく把握することを目指し，その適切な支援・指導のありかたについて検討することが最も重要である。まずは，アセスメントに重きを置き，子どもの実態把握のための基本的な視点について習得することをねらいとする。	①④⑤ ⑥⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・子どもの実態を把握するために必要な専門的知識について理解し，簡単に説明することができる	発表・議論 レポート・プレゼン資料	10% 20%
情報収集，分析力	・自分のもつ問題意識の根拠となる，新聞やニュース，文献，書籍などから事例や情報，理論を収集することができる。 ・多面的に物事を整理し，自分自身がどう考え捉えているのかを意識して，プレゼン資料やレポートを作成することができる。	レポート・プレゼン資料	30%
コミュニケーション力	・他者の意見（ものの見方）に関心・理解を示しつつ，自分自身がどう考え捉えているのかを伝えることができる。	発表・議論 授業の振り返り	15% 5%
協働・課題解決力	・グループ（ペア）活動において，様々な問題を抱えた子どもの丁寧な実態把握とそれに対する支援，指導の在り方について，互いに協力して検討を進めることができる。	発表・議論	15%
多様性理解力	・自身の課題への取組と他者の意見を通して，色々なものの見方，感じ方があることを理解することができる。	発表・議論 授業の振り返り	5%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については，レポート・プレゼン資料の様式や内容を 50%，発表・議論，授業の振り返り（授業後記述）を 50%の比率で評価する。レポート・プレゼン資料は，文献等の引用ルールの順守等の基本的なアカデミックスキルと根拠を踏まえた論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レポート・プレゼン資料の作成に関しては，演習の初回で説明し，作成に関する修正点や質問等は随時対応する。発表・議論，授業の振り返りについては，専門的な視点への意識の有無やテーマに対する考えの深まりについて，発言の内容や議論への参加などを基準に評価する。
なお，前回の授業の振り返りについては次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

授　業　の　概　要

この演習では，学校心理学を大きな柱とし授業を展開する。各グループテーマを決め，様々な問題を抱える子どもたちの実態把握を丁寧に行い，その具体的な指導・支援（協力体制）の在り方について具体的に検討を行う。互いのグループ内での意見交流，グループ間の発表を通して，多様な問題があること，それに対するものの見方も様々であること そして，チーム（またはペア）で連携して実態を把握し，支援等を検討することの重要性を体感することで，互いの連携力も磨いていきたい。この演習の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は，45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。
参考書：授業時に紹介するので，詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。
指定図書：思春期・青年期のこころ―かかわりの中での発達（平石賢二編著，北樹出版），生徒指導提要（文部科学省）
※留学生には別途，授業中に指示する

授業外における学修及び学生に期待すること
1．他者の発表内容（テーマ）への理解を深めるために事前に資料に目を通したり，関連資料を収集したりすること 2．発表の有無に関係なく，毎時間自分の意見を必ず発表することで，自分の考えを整理するよう努めること。 3．自分の考えの根拠となる客観的資料（論文，著書など）の収集を普段から意識すること 4．自分にとっての切実な心理的，教育的課題についての問題意識を整理すること。 5．グループワークの際は，互いに意見を出しやすい雰囲気づくりを意識すること。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	イントロダクション	メンバー自己紹介 授業の概要およびゼミの運営方法を確認する。	予習：事前にシラバス及び演習概略を確認する
2	前学期の省察と本学期の目標設定	個別面談による目標設定をおこなう。	予習：自身のこれまでの取組や興味・関心について整理してくる。
3	基本的知識の習得①	学校心理学の領域について（8 つの領域）	復習：8 つの領域の整理
4	基本的知識の習得②	子どもたちの学習や心の発達を援助するための，アセスメント，コンサルテーション，カウンセリングについて	復習：エリクソンの漸成発達理論について復習
5	基本的知識の習得③	子どもたちが抱える諸問題について	予習：子どもたちが抱える問題について具体的に調べてくる
6	基本的知識の習得④	子どもの実態把握（アセスメント）の具体的提案	復習：アセスメントの方法
7	基本的知識の習得⑤	支援・指導の在り方についての具体的提案（連携の視点）	復習：連携の在り方について
8	グループテーマ決定	グループの決定と，グループテーマの検討，子どもたちが抱える具体的問題を一つテーマとして決定	復習：設定したテーマについての調べ学習
9	グループ活動①	対象と具体的な問題を設定，その背景についても推察し，具体的な支援，指導の在り方をグループ内で検討する	復習：グループの問題意識に基づくテーマについての検討と探究
10	グループ活動②	客観的根拠の収集 具体的な支援，指導については，ロールプレイによる発表スタイル	復習：自分の問題意識に基づくテーマについての検討と探究
11	グループ発表①	グループ発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表練習 復習：議論についての整理
12	グループ発表②	グループ発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表練習 復習：議論についての整理
13	レポート・発表資料の構想	これまでの学びを振り返り，個人のテーマを設定 場合によっては個別対応あり	復習：レポート・発表資料作成
14	レポート・発表資料の作成	テーマに関するレポート，発表資料作成	予習：学びの想起 復習：レポートの仕上げ，発表資料の完成
15	成果の発表	テーマに関する発表	予習：発表練習 復習：レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIA(CF301)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
専門演習 IIA および IIB では、社会科学分野においてはスポーツマネジメントや地域スポーツ、自然科学分野においては運動生理学や測定評価・コンディショニングに関する専門的知識を習得することを目的とする。特に、各自の専門競技種目や興味関心の高い分野における研究の現状を把握し、卒業論文を作成する準備を進めていく。IIA では運動生理学やスポーツマネジメントに関するテキストや論文の輪読を行うこと、また関連情報の収集や分析、実習に主眼を置く。	②③⑤⑧

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・ スポーツマネジメントや運動生理学に関する専門的知識を獲得することができる。	・ 課題の取り組み	30%
情報収集、分析力	・ スポーツマネジメントや運動生理学に関する情報を、書籍や論文等を通して収集し、自身の考察力を向上することができる。	・ 情報収集の内容	50%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べることができる。	・ 質問や意見を踏まえての議論	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

スポーツマネジメントや運動生理学に関する理解度を、課題の取り組みや実習により評価する（評価比率:30%)。また、各自の専門種目や、関心のあるテーマに関するデータ・先行研究などの資料を基に、その趣旨を考察し、適切に要約し、情報収集を行っているかを評価する（評価比率:50%)。さらに、担当の授業時間で実施するプレゼンテーションやディスカッションの内容を評価する（評価比率:20%)。授業課題の提出やフィードバックはポートフォリオを通して行う。

授業の概要

スポーツマネジメントや運動生理学に関するテキストや論文を輪読する。輪読に伴い、PC やタブレット等を用いた文書やスライドの作成技術を実践的に修得する。担当者は予習として事前に資料を作成し、授業ではプレゼンテーション形式による発表と、参加者全員によるディスカッションを行う。また、理論的な内容を実習によって実践的なものにしていく。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない
参考書：「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康・体力づくり事業財団（南江堂）
指定図書：「スポーツマネジメント入門」相原正道他 2021（晃洋書房）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習を通してスポーツ実践のための生理学的理論や、スポーツを支えるためのスポーツマネジメント理論に触れ、自身の専門種目の競技力向上や、将来のスポーツに関わる仕事に反映してほしい。また、本演習で行うカンファレンスや実習によって、コミュニケーション能力や課題の取り組みなど、社会人の基礎となる能力の向上を目指してほしい。そのために、挨拶や授業態度、時間厳守などの基本的な社会行動を守り、授業を欠席する際には事前に連絡するなどの習慣をつけてほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	・ 本演習の進め方についての説明 ・ 自己紹介、個別の面談実施	予習：シラバスを熟読する 復習：ゼミメンバーの確認
2	本学期の目標設定	・ 前学期の省察 ・ 本学期の目標設定	予習：前学期の省察 復習：本期の目標確認
3	輪読準備	・ 参考書・テキストなどの紹介 ・ 輪読方法の紹介	予習：専門種目や興味あるスポーツについてのテキストを読む 復習：輪読方法の確認
4	研究発表の聴講	・ 教員による輪読・発表を聴き、質問をする ・ 発表担当者の決定	予習：PC の準備 復習：輪読内容の確認
5	輪読（1）	・ 担当者による発表（運動生理学部門１）	予習：該当部分のテキストを読む 復習：運動生理学と専門種目について考える
6	輪読（2）	・ 担当者による発表（運動生理学部門２）	予習：該当部分のテキストを読む 復習：運動生理学と専門種目について考える
7	実習	・ 運動生理学理論に基づく筋力･神経系トレーニング	予習：トレーニング法を調べる 復習：実施したトレーニングと専門種目について考える
8	輪読（3）	・ 担当者による発表（運動生理学分野３）	予習：該当部分のテキストを読む 復習：有酸素系運動と専門種目について考える
9	輪読（4）	・ 担当者による発表（運動生理学分野４）	予習：該当部分のテキストを読む 復習：有酸素運動と専門種目についてまとめる
10	実習	・ 運動生理学理論に基づく持久力系トレーニング	予習：有酸素運動系の理論について確認 復習：実施したトレーニングを専門種目に取り入れる
11	輪読（5）	・ 担当者による発表（スポーツマネジメント分野１）	予習：該当部分のテキストを読む 復習：専門種目のマネジメントについて考える
12	輪読（6）	・ 担当者による発表（スポーツマネジメント分野２）	予習：該当部分のテキストを読む 復習：専門種目のマネジメントについてまとめる
13	実習	・ スポーツマネジメントの理論に基づきスポーツイベントの企画を立案	予習：興味のあるスポーツイベントをマネジメントの観点から調べる 復習：立案した企画を精査する
14	実習	・ 企画したイベントの発表	予習：立案した企画を完成させる 復習：受けた質問や意見をもとに内容を修正する
15	総括	・ 前期授業のまとめ ・ 休暇中の課題を決定する	予習：前期の授業を振り返る 復習：各自設定した課題などを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
この演習は、ⅠA/Bで習得した人類学的理論をベースとした応用編となります。質的調査を中心としたリサーチ方法論の基本的な概念と具体的な手法を学んでいきます。とりわけ、人類学がよって立つ方法論でもあるフィールドワークを深く学び、文献などの二次的資料からではつかめない生の現実をより客観的、科学的に捉え、多方面からの対象の理解によって、人間のより本質的な側面に内側からの接近を試みます。ここではフィールドワークを「生きる方法を見つけるという共通任務に他者とともに加わること」に関するものと捉えます。	②④⑥⑦⑧⑩⑪

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	社会科学の理論的構築とフィールドワークに基づいた質的調査が展開できる	・フィールドワーク ・文献収集	30%
情報収集、分析力	フィールドワークの文化人類学的理解ができ、実際に具体的な地域と課題を設定した情報収集のためのリサーチデザインが描ける。プライマリーデータの重要性を理解し、効果的に研究するにあたってのプランニングができる。	・レポート ・討議参画 ・意見の陳述	40%
コミュニケーション力	参与観察や非構造的インタビューを理解し、実際に応用ができる。ラポールの定義ができ、具体的に構築するための方策をイメージできる。コミュニケーションを積極的に取り協力しながら、独自の意見や考えを共有し課題を解決できる。	・意見の陳述 グループワーク	20%
協働・課題解決力	PBL やプレゼンを通して共通課題に取り組み、深い問題意識をもって自己表現能力を高めることができる。困難にぶつかっても仲間と協力し合い助け合いながら、グループワークや問題解決に挑める。	・意見の陳述 ・グループワーク	10%
多様性理解力			
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

グーグルクラスを基盤として授業を進行します。初めての人には初日に分かりやすく説明します。すべての提出物や、授業で使用するマテリアルはこの ICT をプラットフォームとし、添削などのフィードバックを機能的にします。15 週の中で各学生がどの様に考え、どの様にそれを表現したかを評価軸におきますので、筆記試験は行いません。プレゼンテーションも評価対象になりますが、本番の発表だけでなく、それに至る過程、取り組み姿勢、事前準備、特にフィールドワークやグループワークなど実践を通した学びをより重視します。故に、目に見える授業姿勢だけではなく、オフクラスの取り組みがレポートとして反映される提出物を重視します。中でも、リアクションペーパーによって授業を作っていくので特に重きを置きます。基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点からも、提出物を評価します。参加型の演習なので無断欠席は仲間の学習に支障となり、減点対象にします。

授業の概要

この授業はPBL であり、卒論に向けて取り組もうとする課題をプロジェクトとして、文化人類学的理解と手法でアプローチします。構成としては反転授業となります。つまり、授業前半で得たインプットを後半のグループワークでアウトプットし、オフクラスでは授業全体で得たインプットを、次の授業に生かすために復習し、グループワークやディスカッションをより豊かなものにする予習にも活用します。また、プロジェクトの発表として中間と最終日にフィールドワークや授業のインプットを反映したプレゼンテーションをグループで行います。個々の内容に関連したビジュアルエイドや動画などを積極的に取り入れていれながら、楽しく共に学んでいきたいと思います。また、ＥＳＰ（English for Specific Purpose）でもあるので観光を通して英語が学べるよう、共通言語を英語とします。アクティブに参加できるようにフレーズや単語など表現を前もって予習して臨んでください。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とします。

教　科　書　・　参　考　書
教科書：　『フィールドワークの学び方』佐藤慎司　ナカニシヤ出版　2022 年 参考書：　『旅と観光の人類学』　橋本和也　著　　新曜社　2022 年 指定図書：『観光人類学のフィールドワーク』: 市野澤　潤平　編　ミネルヴァ書房　2021 年
授業外における学修及び学生に期待すること
卒論に向けたリサーチ方法論の基本を習得することは基より、観光の現場においても論文という形で自らの知見を発信することは、ともすれば机上の空論に陥りがちなアカデミクスに風穴を開け、フィールドからの声なき声を形にし、理論と実践を統合する重要な橋渡しの役目も担います。科学的で説得力を持った学術的研究を実現するためには、その共通基盤となる学術的調査手法、手順を習得することが、より風通しの良いコミュニケーションの実現につながります。次世代の観光を担うプロジェクトリサーチャーとしての素養を、多様な形態のフィールドワークの方法論に触れ、実践し、会得して、より広い世界にアクセスする契機を観光の場で創造していってください。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 全体の導入	メンバー自己紹介 演習概略および方向性やゼミの運営方法を確認する	事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる
3	個人面談・省察	専門演習Ｉでの成果を振り返り、到達目標の進捗状況や各自の問題意識の持ち方等を確認し、新たな目標設定を行う	本学期に向け新たな目標案を検討しておく
4	社会科学の調査法入門	量的・質的調査法を概観し、その意義と手法を学ぶ	教科書を参考に基本的な用語は調べておく
5	質的調査のパラダイム	キーコンセプトとパラダイムシフトについて学ぶ	教科書を読みこみ、基本概念は押さえておく
6	質的調査の方法論	観察・質問に関する基本的な概念と手法を学ぶ	質問と観察について調べておく
7	フィールドワークとは（１）	ラポール、無知の知について学ぶ	参考資料を読み、基本概念を押さえておく
8	フィールドワークとは（２）	参与観察法・非構造的インタビューについて学ぶ	教科書を読みこみ、基本概念は押さえておく
9	フィールドワークとは（３）	データ収集とその分析について学ぶ	教科書を読みこみ、基本概念は押さえておく
10	中間発表	これまで学んだ方法論を自らの課題に応用し、グループでプレゼンテーションする	これまでのインプットを振り返り、発表の準備をする
11	課題設定と実践（1）	プレゼンした課題を掘り下げ、先行研究を調べ、最適な手法を選ぶ	教科書や資料を参考にまとめの発表の準備をする
12	課題設定と実践（2）	実際に収集したデータをグループで共有する	フィールドワークを行い情報収集しておく
13	課題設定と実践（3）	実際に収集したデータをグループで共有する	フィールドワークを行い情報収集しておく
14	ⅡA 全体の振り返り	演習で学んだことを省察し、次の学年での学びや自分の将来にどの様につなげるのかを考える	学んだことを再確認し、具体的な形にする
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う	半期のまとめ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡＡ　(CF301)			担当教員	余　乾生		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます重要性が増してきた社会保障をめぐって、その具体的なトラブルにフォーカスする。まず理解を深めるために、年金、介護という個々の社会保障の分野の仕組みを把握する。これを前提に、具体的なトラブル（判例）を取り上げながら、正義や価値観という法的な角度から、議論を展開する。判例の紹介に際して、模擬裁判を通じて、予習、グループワーク、ディベート、自分自身の課題提起およびその解決を求める。	①④⑤⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	社会保障判例をめぐる基礎知識を理解することができる。	演習への参加度	20%
情報収集、分析力	模擬裁判を通じて、資料を作成し、わかりやすく発表することで、判例をめぐる必要情報の調べ方や判例の分析や議論がある程度できる。	最終レポートとディベート	50%
コミュニケーション力	他の方の意見を正確に把握し、論理的に回答やディベートができる。	ディベート	10%
協働・課題解決力	グループで事前の打ち合わせやディスカッションにより、課題解決に繋ぐことができる。	演習への参加度	10%
多様性理解力	授業中のディベートを通じて、同じものに対して、異なる意見や理解が可能ということを認識できる。	演習への参加度	10%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・最終レポートとディベート：参考資料の適切さ、レポートとディベートのわかりやすさと論理性について評価する。
・演習への参加度：グループワークやディベートへの参加度合を評価する。
・フィードバックは授業中に適宜行う。

授業の概要

ますます重要性が増してきた社会保障について、専門演習Ⅰでは、政策論の視点から検討した。しかし、具体的なトラブルの解決方法については、まだイメージができていない。本演習では、前期後期を通じて、社会保障における年金、介護、労災と雇用の 4 分野について、具体的なトラブルとその解決の法的ロジックについて検討する。それぞれの分野の制度の仕組みを授業中把握した上で、模擬裁判を通じて、論理的な思考を訓練する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。
参考書：適宜紹介する。
指定図書：『社会保障判例百選 第5版』、岩村正彦編、有斐閣

授業外における学修及び学生に期待すること

・判例、とりわけ、社会保障の判例は普段接触の機会が少ない。しかし、社会保障は私たちの私生活に相当の影響を及んでいる。決して無関係ではない。こうした難しそうで、重要なものに、挑戦してみよう。
・模擬裁判や判例分析について、少し法学入門レベルの知識があれば、やりやすくなる。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	教員ならびに受講生の自己紹介を行い、模擬裁判や判例について説明する。ゼミ担当教員と相談しながら、グループ分けを確定する。	予習：シラバスを読む 復習：模擬裁判や判例の説明
2	社会保障の法的仕組み	総論的に、社会保障法の目的、重要な概念、位置づけを確認する。	予習：授業レジュメを読む 復習：確認問題を解く
3	憲法 25 条などをめぐる判例	社会保障法の憲法上の根拠を確認する。堀木訴訟および判例の読み方を紹介する。	予習：授業レジュメを読む 復習：確認問題を解く
4	年金の仕組み	各論的に、年金の仕組みおよびその問題点を確認する。	予習：授業レジュメを読む 復習：確認問題を解く
5	年金に関する判例　①	年金に関する判例を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、判例の構造を確認する。	予習：年金の判例の全体像 復習：判例の構造
6	年金に関する判例　②	年金に関する判例の「事実概要」を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、「事実概要」をまとめる。	予習：判例の事実 復習：事実のまとめ
7	年金に関する判例　③	年金に関する判例の「争点」と「判旨」を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、「争点」と「判旨」をまとめる。	予習：判例の争点と判旨 復習：争点と判旨のまとめ
8	年金に関する判例　④	模擬裁判のための作戦会議。	予習：判例の論理 復習：作戦会議の内容
9	年金に関する判例　⑤	模擬裁判本番およびフィードバック。	予習：模擬裁判の資料作成 復習：改善点
10	介護の仕組み	各論的に、介護の仕組みおよびその問題点を確認する。	予習：授業レジュメを読む 復習：確認問題を解く
11	介護に関する判例　①	介護に関する判例を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、判例の構造を確認する。「事実概要」をまとめる。	予習：介護の判例の全体像 復習：事実のまとめ
12	介護に関する判例　②	介護に関する判例の「争点」と「判旨」を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、「争点」と「判旨」をまとめる。	予習：判例の争点と判旨 復習：争点と判旨のまとめ
13	介護に関する判例　③	模擬裁判のための作戦会議。	予習：判例の論理 復習：作戦会議の内容
14	介護に関する判例　④	模擬裁判本番およびフィードバック。	予習：模擬裁判の資料作成 復習：改善点
15	まとめと展望	まとめと最終レポートの説明	本学期の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	長津恒輝		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA およびⅡB では、スポーツ健康科学分野における学術的な論文を読み解き理解する能力と科学的な実験を実施する能力の向上をねらいとする。ⅡA では、原著論文を抄読し、卒業研究に向けた科学的な考え方を習得するとともに、興味関心を持つ幅を拡げることを目標とする。	②③

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・スポーツ健康科学分野における知識を獲得し、関連内容に対して新たな疑問を持つことができる	・発表スライド	40%
情報収集、分析力	・該当する内容に見合った論文を検索し、グラフや文章から内容を読み解くことができる	・情報収集	40%
コミュニケーション力	・ディスカッションを通して自身の考えを述べることができ、他者の質疑に対して科学的な根拠を持った回答ができる	・ディスカッション内容	20%
協働・課題解決力			%
多様性理解力			%

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

担当回の発表は関連研究の情報を収集できているか（40%）、および自分なりの解釈や考察をしているか（40%）を評価する。また、ディスカッション時に科学的な根拠を踏まえた発言をしているか（20%）を評価する。フィードバックはポートフォリオを用いて行う。

授業の概要

スポーツ健康科学分野における原著論文の抄読会を行う。担当者は1本の論文をまとめ、その他メンバーに向けて発表する。その後、該当論文に対するディスカッションを実施し、全体でスポーツ健康科学に関する理解を深める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

教科書・参考書

教科書：特になし

参考書：監訳：内藤久士 他,「パワーズ運動生理学　体力と競技力向上のための理論と応用」(メディカルサイエンスインターナショナル出版)

指定図書：内藤久士 他,「パワーズ運動生理学　体力と競技力向上のための理論と応用」(メディカルサイエンスインターナショナル出版)

授業外における学修及び学生に期待すること

原著論文を読み込むことで、スポーツ健康科学分野における近年の動向を知り、最新の知識を得ることを望む。また、科学的な実験手法や考察の深め方を学ぶ。そのために予習が必要な回では、指定された内容について事前に調査を行う。さらに、ゼミメンバーとの共同での活動やディスカッションを通して、社会性を育むことを期待する。その1つとして忘れ物、遅刻、欠席等は担当教員に必ず連絡する。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・春季休暇中の活動報告 ・前学期の省察と本学期の目標設定 ・本演習の進め方についての説明	予習：シラバスを熟読する 復習：ゼミ内容の全般的な確認
2	組織（ゼミ）作り	・プロセスエデュケーション	予習：自身の持ち味を考える 復習：ゼミ活動での役割を考える
3	抄読会に向けて①	・担当教員による抄読会のデモンストレーション	予習：提示された論文に目を通す 復習：
4	抄読会に向けて②	・論文検索の方法 ・担当回の決定	予習：論文検索サイトを確認する 復習:キーワードから論文を検索してみる
5	抄読会に向けて③	・要約の仕方について ・発表スライドの作成方法について	復習：自身が担当する論文の方法をまとめてみる
6	抄読会①	・担当者による発表とディスカッション	予習：抄読する論文の確認 復習：興味を持った先行研究の要約を読み、概要を把握する
7	抄読会②	・担当者による発表とディスカッション	予習：抄読する論文の確認 復習:興味を持った先行研究の要約を読み、概要を把握する
8	抄読会③	・担当者による発表とディスカッション	予習：抄読する論文の確認 復習：興味を持った先行研究の要約を読み、概要を把握する
9	抄読会④	・担当者による発表とディスカッション	予習：抄読する論文の確認 復習:興味を持った先行研究の要約を読み、概要を把握する
10	抄読会⑤	・担当者による発表とディスカッション	予習：抄読する論文の確認 復習:興味を持った先行研究の要約を読み、概要を把握する
11	抄読会⑥	・担当者による発表とディスカッション	予習：抄読する論文の確認 復習:興味を持った先行研究の要約を読み、概要を把握する
12	抄読会で扱った内容の実践①	・抄読会①～⑥の中から１つの実験をピックアップし、実際に検証する計画を立てる	予習：実践したい論文を挙げる 復習：計画を見直す
13	抄読会で扱った内容の実践②	・実験を行い、データを取得する	予習：実験の準備をする 復習：データをまとめる
14	抄読会で扱った内容の実践③	・得られたデータから考察を試みる	予習：データを分析する 復習：実験全体の改善点を挙げる
15	総括	・本演習の振り返り ・夏季休暇課題の提示	予習：振り返りを個人で事前に行い、発表できるようにする 復習：課題に取組む

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	小泉　優莉菜		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
テーマ：博物館・地域文化資源の博物館学的研究 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。	①⑥⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。	授業・調査への参加	30%
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。	事前・事後学習	40%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。	調査における態度	20%
協働・課題解決力	フィールドワークなどの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。	ゼミ生同士でのプレゼンテーション	10%
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

情報収集・分析力が40%、卒業研究に関する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション10%で評価する。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。

授　業　の　概　要

・博物館の調査日程・調査方法などを検討する。
・現地調査を1 日以上実施する。
・研究発表会を行う。
・研究成果レポートの作成と提出。
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。

参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣）

指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。

また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。
※現地調査の旅費は実費とする。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：博物館調査館の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	見学館の事前学習①	博物館調査の場所・日程等について検討する。 博物館調査の具体的内容と割振りをする。	予習：博物館予備調査 復習：今回の復習
4	見学館の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習：レポート内容確認 復習：レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	前期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 ⅡA (CF301)			担当教員	張　美慶		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本授業では未来成長産業として注目される医療観光について学ぶ。医療観光が持つ意味も、医療と観光が結合したMedical Tourism、包括的な健康サービスを消費するWellness Tourismへと領域に拡大する傾向にある。医療観光を推進している国の事例を踏まえ、日本医療観光の可能性、方向性、長崎に適用できるウェルネス観光について考察する。	②③④⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	ニューツーリズムの一つである医療観光市場について説明できる。	レポート	25　%
情報収集、分析力	PCを活用することで、多様な情報を収集することができる。	資料調査	40　%
コミュニケーション力	発表を通じて自分の考えを伝えて質問することができる。	チーム発表	20　%
協働・課題解決力	医療観光の市場規模と医療観光先進国の動向を把握し長崎ウェルネス観光の可能性を探る。	チーム内で議論する	15　%
多様性理解力			%

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

医療観光市場の専門力についてレポートで評価する(評価比率25%)。情報収集,分析力を確認するため 明確な資料調査で評価する(評価比率 40%)。また、コミュニケーション力はチーム発表で(評価比率 20%)、協力課題解決力はチーム内で取り組む議論で評価する(評価比率15%)。レポート、チーム発表のフィードバックは授業中に適宜行う。

授業の概要

医療観光の類型は大きく重症疾患者、整形手術、健康検診予防に分けられる。医療観光の概念と形成要因、各国の特徴を学び、今後日本の医療観光のあり方について考える。特に長崎ウェルネス観光ブランドまちづくりについて深く議論する。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。
参考書：真野俊樹『アジアの医療提供体制-日本はアジアの医療とどう向き合えばいいのか-』日本医学出版
指定図書：参考書と同じ

授業外における学修及び学生に期待すること

観光分野でも医療観光は学生たにとってまだ馴染みのない分野かもしれない。国際化が進んでいる医療観光において、治療目的の医療観光よりも健康的な生活を維持するための予防健康目的のウェルネス観光に焦点を置き、長崎地域のコンセプトに合ったウェルネス観光ブランドづくりのための創造力と新しいことを受け入れることで自分の意思決定、思考、判断力を身につけて欲しい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	ガイダンス	授業運営方法を説明、自己紹介後チームメンバーを構成する。	予:シラバスを事前に確認すること
2	省察、個人目標設定	前学期の省察を行う。なお、個人目標設定のため個別の面談を実施する。	面談の準備
3	医療観光について	医療観光の概念、形成要因と形態について学ぶ。	予:医療観光の概念についてネットで検索してみる復：授業中に取り込んだ内容を整理する
4	医療観光コミュニケーション	医療観光コミュニケーションの重要性について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
5	医療観光効果	医療観光の否定的、肯定的な効果について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
6	海外医療観光市場	国際患者の移動状況とアジア及び海外医療観光国について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
7	韓国医療観光	韓国医療観光の現状と特徴、問題などについて学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
8	医療観光マーケティング戦略	マーケティングミックス、病院の医療観光客誘致戦略について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
9	医療観光広報マーケティング	医療観光マーケティングの必要性と戦略について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
10	アジアと日本の医療	アジアと日本の医療をめぐる情勢について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
11	医療の輸出の現状と課題	医療を輸出するという動きの背景、日本が考えるべきことについて学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
12	ウェルネス観光	ウェルネス観光の事例について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
13	ウェルネス観光とまちづくり	地域を健康にするウェルネス観光の方向性とまちづくりついて学ぶ。	予:ネットでウェルネス観光の方向性について調べておくこと 復：授業中に取り込んだ内容を整理する
14	ウェルネス観光と長崎①	長崎地域の環境に合ったウェルネス観光について議論後、長崎ウェルネス観光ブランド戦略についてチームごとに発表。	復習:チーム別に議論した内容についてもう一度整理する
15	ウェルネス観光と長崎② まとめ	長崎地域の環境に合ったウェルネス観光について議論後、長崎ウェルネス観光ブランド戦略についてチームごとに発表。	復習:チーム別に議論した内容についてもう一度整理する